Project 05：都民参加による面的･持続的なバリアフリー移動支援情報の整備

別紙⑤

実証の目的と実施内容

【目的】

✓ 都のオープンデータも含め、統一的なデータ標準形式のバリアフリー情報を整備し持続的に更新することで、多様な事業者がその情報を利用し、移動弱者を支援するサービス等の提供につなげる

テーマ	実施エリア	プロジェクト実施者
バリアフリー	西新宿	**(株)NTTデータ（プロジェクト代表者）**、日本電信電話(株)、(株)NTTデータ経営研究所

①
バリアフリー情報の収集・更新

①-1.データ収集

- 専用アプリを活用して西新宿エリアのバリアフリー情報を収集
- 「だれでも東京」等のオープンデータを統合

①-2.バリアフリーナビサービス検証

- 車いすユーザーやベビーカーユーザーに専用アプリを利用しながらルートを走行いただき、収集したバリアフリー情報の網羅性や改善点等を検証

②
バリアフリー情報を活用したサービス検討

②-1.考えうるサービスの検討

- 車いすでも利用しやすい乗り換え･ルート案内
- 災害時、通行不可ルートを避けた避難ルート案内
- 超低速宅配ロボットの自動走行等

②-2.提供可能性の検証

- 想定しうるサービス提供事業者やデータ保有者、車いすユーザー等に対し、サービスへのニーズの有無やデータの連携意向等について、ヒアリングを実施

事業の成果と今後への期待

主要な成果

専用アプリ活用の有効性を検証

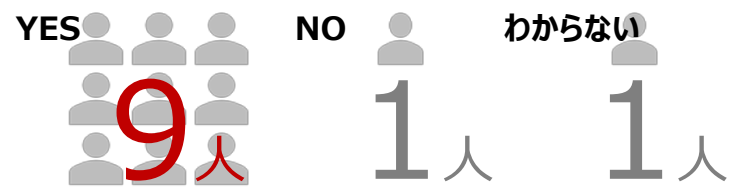
- **専門知識がなくとも、アプリで効率的に必要データを収集可**
- しかし、専用アプリを活用しバリアフリー情報を収集するために、20kmを計測するため100時間要した
- 本実証で整備した**バリアフリー情報を付与した経路案内**について、**11人のうち10人が活用したい**と回答＊

「バリアフリーな経路案内」を今後も利用したいか

他データとの掛けあわせによるサービス案の実現性検証（アンケート結果より）

- バリアフリー情報と他のデータとの掛けあわせによるサービスを検討し、中でも**電車の運行情報等との掛けあわせによるサービス**は、車いすユーザー等からの利用ニーズを確認＊
  - ユーザーからは「複数路線が乗り入れている駅は乗り換え時に困る」「エレベータの場所が分かりにくい」等の声が聞かれた

「車いすでも利用しやすい乗り換え・ルート案内」を利用したいか



実証を踏まえて

✓ 【発展性】都民の協力を活用したバリアフリー情報の整備は技術的には可能。一方、網羅性や信頼性を確保し持続的に整備をすすめるには、**品質を管理する主体として行政の関与**が求められる

➢ 公益目的の元、官民連携でデータ整備を進めつつも、**他用途/多用途での活用（マネタイズも含めた民間サービスでの利用）を掘り起こし、持続可能な仕組み作りが必要**

＊ 車いすユーザー7名、ベビーカーユーザー4名へのアンケート結果